

安全データシート(SDS)

1. 製品及び会社情報

| | |
|-----------------|----------------------------------|
| 製品名 | : イーグリップ80 ver.3(E-Grip80 ver.3) |
| 製品コード | : 103001 |
| 会社名 | : 株式会社創新 |
| 住所 | : 東京都豊島区上池袋4-11-16ノックストールビル3階 |
| 電話番号 | : 03-3918-3100 |
| FAX番号 | : 03-3918-3511 |
| 推奨用途及 使用上の制限 | : 自動車用板金用パテ 業務使用 |

2. 危険有害性の要約

GHS分類

| | |
|------------------|---|
| 物理化学的危険性 | |
| 引火性液体 | 区分3 |
| 健康に対する有害性 | |
| 皮膚腐食性/刺激性 | 区分2 |
| 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | 区分2 |
| 生殖細胞変異原性 | 区分2 |
| 発がん性 | 区分2 |
| 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | 区分1(呼吸器) 区分2(神経系) 区分3(麻酔作用、気道刺激性) |
| 特定標的臓器毒性(反復ばく露) | 区分1(呼吸器) |
| 環境に対する有害性 | 区分に該当する項目はない |

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

| |
|--------------------------|
| 危険 |
| 引火性液体および蒸気 |
| 皮膚刺激 |
| 強い眼刺激 |
| 遺伝性疾患のおそれの疑い |
| 発がん性のおそれの疑い |
| 呼吸器の障害 |
| 神経系の障害のおそれ |
| 呼吸器への刺激のおそれ |
| 眠気またはめまいのおそれ |
| 長年にわたる、または反復ばく露による呼吸器の障害 |

注意書き

安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地しアースを取ること。
防爆型の電気/換気/照明等機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

| | |
|------|--|
| 応急措置 | 取扱い後は手、顔をよく洗うこと。 |
| | 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入しないこと。 |
| | この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 |
| | 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 |
| 保管 | 皮膚または髪に付着した場合: 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水またはシャワーで洗うこと。 |
| | 火災の場合: 消火するために適切な消火剤を使用すること。 |
| | 皮膚刺激または発疹が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。 |
| | 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。 |
| | 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 |
| | 眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること。 |
| | ばく露またはばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当てを受けること。 |
| | 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 |
| | 気分が悪いときは医師に連絡すること。医師の診断/手当てを受けること。 |
| | 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 |
| 廃棄 | 涼しいところに置くこと。 |
| | 施錠して保管すること。 |
| | 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託し適切に廃棄すること。 |

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別成分 : 混合物

| 化学名 | 含有率 | CAS番号 | 化審法番号 | 安衛法 | | PRTR | 毒劇 |
|-----------------------|---------------|------------|-------|-------|-------|------|-----|
| | | | | 表示 | 通知 | | |
| タルク | 25- $<$ 50% | 14807-96-6 | 対象外 | 非該当 | 非該当 | 非該当 | 非該当 |
| ビニルトルエン | 10- $<$ 25% | 25013-15-4 | 3-8 | 該当 | 該当 | 非該当 | 非該当 |
| 炭酸マグネシウム | 10- $<$ 25% | 546-93-0 | 1-155 | 非該当 | 非該当 | 非該当 | 非該当 |
| 二酸化チタン | 1-2.5% | 13463-67-7 | 1-558 | 該当 | 該当 | 非該当 | 非該当 |
| 2,2'-(p-トリルイミノ)ジエタノール | 0.1- $<$ 0.5% | 3077-12-1 | 3-233 | 非該当 | 非該当 | 非該当 | 非該当 |
| 2,3,5-トリメチルハイドロキノン | 0.1- $<$ 0.5% | 700-13-0 | 3-555 | 非該当*1 | 非該当*1 | 非該当 | 非該当 |

*1 閾値未満のため非該当

4. 応急措置

| | |
|-----------|---|
| 吸入した場合 | 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 呼吸に関する症状が出た場合: 医師に連絡すること。 |
| 皮膚に付着した場合 | 気分が悪いときは医師に連絡すること。 多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。 |
| 眼に入った場合 | 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。 直ちに、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 |
| 飲み込んだ場合 | 眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。 口をすすぐこと。 気分が悪いときは医師に連絡すること。 |

5. 火災時の措置

| | |
|--------------|---|
| 消火剤 | 粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素、水噴霧 |
| 使ってはならない消火剤 | 棒状注水 |
| 火災時の特有の危険有害性 | 情報なし |
| 特有の消火方法 | 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。 消火作業は、風上から行う。 |
| 消火を行う者の保護 | 消火活動では適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。 |

6. 漏洩時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

流出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
漏洩時の処理を行う際には、必ず呼吸器保護具、保護手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
全ての着火源を流出した場所の周囲から取り除く。
風上から作業し、風下の人を退避させる。

環境に対する注意事項

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を及ぼさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材**回収**

スコップですくい取り空容器に回収する、取除いた後、残りをウエス雑巾等によくふき取る。
防爆型の電気/換気/照明等機器を使用する。
火花を発生させない工具を使用する。
静電気放電に対する予防措置を講ずる。

中和

「13、廃棄上の注意」に従い適切に処理する。

二次災害の防止

こぼれた場所は滑りやすいために注意する。
付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い上及び保管上の注意**取扱い****技術的対策(局所排気、全体換気等)**

気中濃度を管理濃度、許容濃度又は推奨される濃度以下を保つために、適切な全体換気または局所排気を行う。
安全シャワー、洗眼器を設置する。
防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用する。
静電気放電に対する措置を講ずる。

取扱者のばく露防止の記載

眼、皮膚との接触を避ける。
適切に接地する。
火花を発生させない工具を使用する。
取り扱いには、換気の良い場所で行う。
取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

接触回避

「10. 安定性及び反応性」にある混触危険物質と接触しないように取扱う。

衛生対策

取扱い後は、手、顔をよく洗い、うがいをする。

保管**安全な保管条件**

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
涼しいところに置くこと。
施錠して保管すること。

安全な容器包装材料

オリジナルの容器に保管する。

8. ばく露防止及び保護措置**安衛法**

| | |
|----------|----------|
| 管理濃度 | 設定されていない |
| 濃度基準設定物質 | 設定されていない |

許容濃度

| | | | |
|---------------------|----------------|-------------------------|---------|
| 日本産業衛生学会 (2022年) | タルク(第1種粉じん) | 0.5mg/m ³ | (吸入粉塵) |
| | | 2mg/cm ³ | (総粉塵) |
| ACGIH (2020年) | 二酸化チタン(第2種粉じん) | 1mg/m ³ | (吸入粉塵) |
| | | 4mg/m ³ | (総粉塵) |
| | タルク | TWA 2mg/m ³ | (吸入性成分) |
| | 二酸化チタン | TWA 10mg/m ³ | |

設備対策

屋内作業場での使用の場合は発生源を密閉化し、又は、局所排気装置を設置する。
取扱場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具

| | |
|------------|-----------------|
| 呼吸用保護具 | 有機ガス用防毒マスクを着用する |
| 手の保護具 | 耐透過性保護手袋 |
| 眼の保護具 | 安全眼鏡、安全ゴーグル |
| 皮膚及び身体の保護具 | 長袖作業衣 |

9. 物理的及び化学的性質

| | | | |
|----------------|-------------------------|-----|-----------|
| 物理的状态 | 液状、ペースト | | |
| 色 | 緑色 | | |
| 臭い | 芳香臭 | | |
| 融点/凝固点 | 情報なし | | |
| 沸点又は初留点及び沸点範囲 | 145°C | | |
| 可燃性 | 情報なし | | |
| 爆発下限界及び爆発上限界 | 情報なし | | |
| 引火点 | 31.5°C | | |
| 自然発火点 | 情報なし | | |
| 分解温度 | 情報なし | | |
| pH | 情報なし | | |
| 動粘性率 | 51388mm ² /s | | |
| 粘性率 | 53572mPa·s | | |
| 溶解度 | 情報なし | | |
| n-オクタノール/水分配係数 | 情報なし | | |
| 蒸気圧 | 情報なし | | |
| 密度 | 1.029g/cm ³ | | |
| 相対ガス密度 | 情報なし | | |
| 粒子特性 | 情報なし | | |
| その他データ | VOC含有率 | 適用時 | 170.15g/L |
| | | 包装時 | 204.90g/L |

10. 安定性及び反応性

| | |
|-----------|------------------|
| 反応性 | 情報なし |
| 化学的安定性 | 通常の条件下で安定。 |
| 危険有害反応可能性 | 通常の取り扱いでは予想されない。 |
| 避けるべき条件 | 加熱、炎、火花 |
| 混触危険物質 | 強酸、強塩基、強酸化剤 |
| 危険な分解生成物 | 二酸化炭素、一酸化炭素 |

11. 有害性情報

製品としての有害性情報はない、成分の有害性情報は以下の通りである。

| | | | |
|-------------------|---------|---------|-------------------------------|
| 急性毒性 | | | |
| 経口 | ビニルトルエン | ラットLD50 | 4000mg/kg |
| 経皮 | ビニルトルエン | ウサギLD50 | >4500mg/kg |
| 吸入(ミスト) | ビニルトルエン | ラットLC50 | >16.9mg/L |
| 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 | ビニルトルエン | | 区分2 |
| 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 | ビニルトルエン | | 区分2 |
| 呼吸器感作性 | 情報なし | | |
| 皮膚感作性 | 情報なし | | |
| 生殖細胞変異原性 | ビニルトルエン | | 区分2 |
| 発がん性 | 二酸化チタン | | 区分2 |
| 生殖毒性 | 情報なし | | |
| 特定標的臓器 単回ばく露 | ビニルトルエン | | 区分2 (神経系) 区分3 (麻酔作用、気道刺激性) |
| | タルク | | 区分1 (呼吸器) |
| 特定標的臓器 反復ばく露 | ビニルトルエン | | 区分1 (呼吸器) |

タルク
誤えん有害性

区分1(呼吸器)
情報なし

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性(急性)

ビニルトルエン

データが不十分で分類できない

残留性・分解性

情報なし

生体蓄積性

情報なし

土壌中の移動性

情報なし

オゾン層への有害性

モントリオール議定書の附属書に列記された物質を含まない

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。

汚染容器及び包装

内容物を完全に除去した後に処分する。

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の規準に従って適切な処分を行う。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上輸送

国連番号

UN1866

品名(日本語名)

樹脂液

国連分類

3

容器等級

III

海洋汚染物質

-

航空輸送

国連番号

UN1866

品名(日本語名)

樹脂液

国連分類

3

容器等級

III

緊急時応急措置指針番号(NAERG)

127

国内規制

海上規制情報

船舶安全法の規定に従う

航空規制情報

航空法の規定に従う

陸上規制情報

消防法の規定に従う

その他

転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。

直射日光を避けて輸送する。

15. 適用法令

化審法

優先評価化学物質

非該当

化学物質排出把握管理促進法

非該当

労働安全衛生法

通知義務物質

ビニルトルエン、二酸化チタン

表示義務物質

ビニルトルエン、二酸化チタン

有機則

非該当

特化則

非該当

がん原性物質

非該当

皮膚等障害化学物質

非該当

濃度基準設定物質

非該当

毒物及び劇物取締法

非該当

消防法

危険物 第4類 第2石油類 非水溶性 危険等級III

16. その他情報

ITW Evercoat社SDS: Revision Date: 26-Apr-2024, Version 6に対応

JIS Z 7253:2019 「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法」-ラベル、作業内容の表示及び安全データシート(SDS)」に対応

NITR-CHRIP

GHS政府分類結果

ACGIH TLVs and BELs 2020

令和5年度施行化管法改訂に伴う見直し(非該当)

令和5年度及び令和6年度施行労働安全衛生法がん原性物質の該否確認(非該当)

令和6年度施行安衛法皮膚等障害化学物質規制に伴う見直し(非該当)

令和6年度施行安衛法濃度基準設定物質規制に伴う見直し(非該当)

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の実施を前提としたものであるため、特殊な取り扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上ご利用下さい。このSDSは、新しい知見により予告なく改訂することがあります。